

害獣撃退装置

「Y N J B A 2 1 1」
「サル用」

納入仕様書

2022年 6月

合同会社YNE

承認	確認	作成

1. 適用範囲

本仕様書は、害獣撃退装置「Y N J B A 2 1 1」に関して適用します。

2. 概要

生態音響（捕獲時苦渋音、狩猟時の吠声、天敵警戒音等）による定時発声（1分～60分）によって、害鳥獣を追い払う「害獣撃退装置」です。

3. 構成

3-1. 本体

「Y N J B A 2 1 1」の構成は表1による。

表1 構成品

番 号	品 名	数 量	備 考
1	Y N J B A 2 1 1 本体	1	
2	AC/DC電源（充電用）	1	

※棒鋼4本に関しては、取扱い時にけがの恐れがあるという趣旨でお客様要望と致しており付属品には含まれません。

3-2. 形状・寸法・質量

最大寸法及び最大質量は表3による。

表3 最大寸法及び最大質量

番 号	品 名	最 大 寸 法 (mm)			最大質量 (k g)	備 考
		幅	高さ	奥行き		
1	本 体	200±2.5	165±2.5	150±2.5	2.10	台座含まず
2	付属品				0.15	

4. 一般定格

1. 対象害獣：サル
2. スピーカタイプ：ダイナミックスピーカー、最大出力2W（8Ω）
3. 生態音響到達距離：約40m以上
4. 発声時間間隔：1分～約60分
5. 生態音響：CH1に12種実装
6. 動作モード：昼間のみ・夜間のみ・昼夜モードをSW切替。
7. 設置：単一設置
8. バッテリ動作時間：太陽電池パネルの充電補助にて、2年以上（※1）
9. 本体寸法 高さ：65mm 幅：175mm 奥行き：125mm（台座・突起部含まず）
太陽光パネル部 高さ：60mm 幅：180mm 取付高さ：55mm（斜め取り付け）
10. 本体重量：2.2kg

※1 3週間以上の雨・曇天時（十分な太陽光を得られないとき）は付属の充電パックで充電が必要となる時がありますが、通常は「晴天」が戻って4時間のソーラーパネル充電で復旧します。

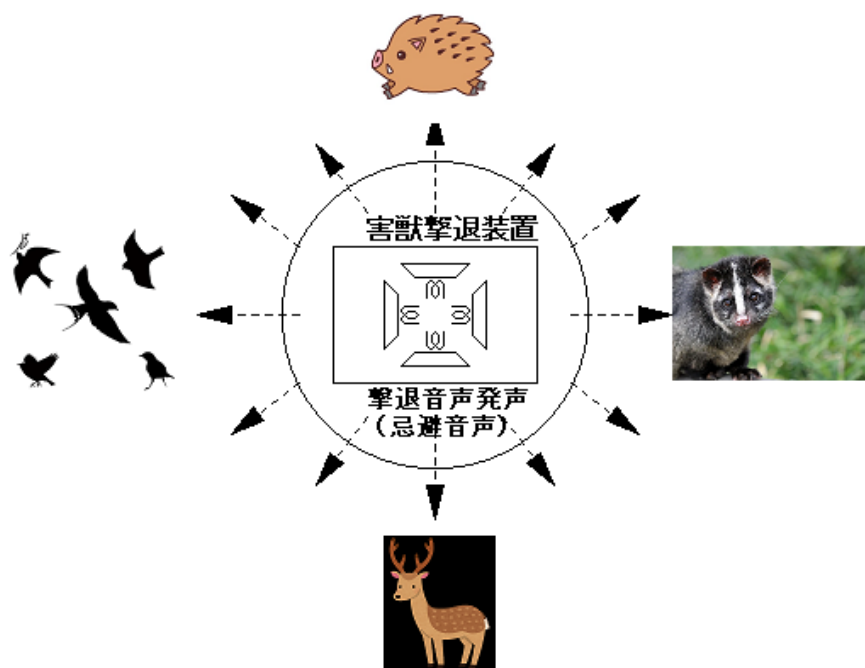
5. 使用法

5-1. 使用法

本装置の概略の使用法を下記に示します。

害獣撃退装置(YNJBA211)

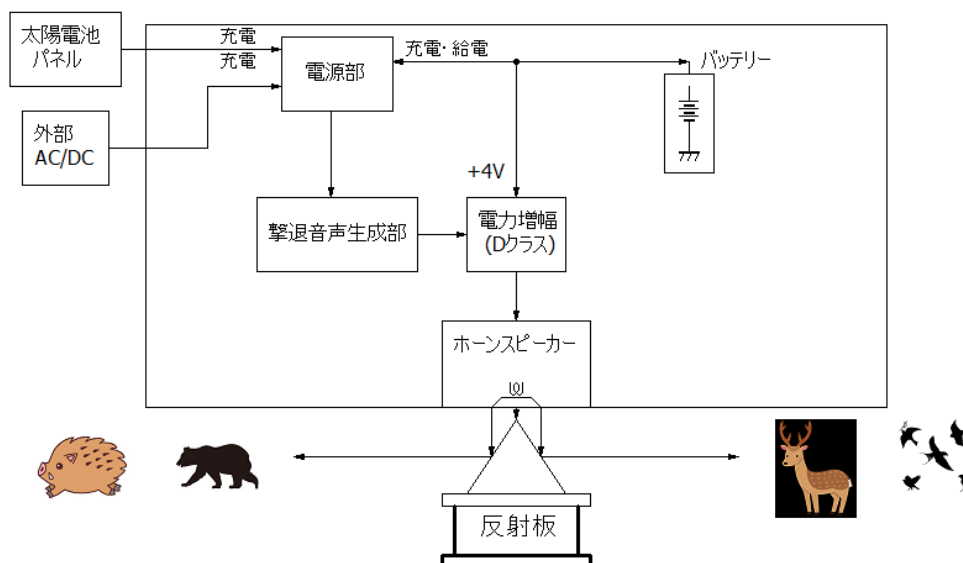
全方向スピーカー



5-2. ブロック図

本基板のブロック図を下記に示します。

害獣撃退装置「YNJBA211」ブロック図



6. 特徴・取扱い

6-1. 特徴

- (1) 害鳥獣を検知時、定時（1分～60分）ごとの生態音響（捕獲時苦渋音、狩猟時の吠声、天敵警戒音等）による威嚇発声によって害鳥獣を追い払う「害獣撃退装置」です。
- (2) スピーカーに全方位ダイナミックスピーカーを使用しており、全方向に切れ目なく忌避生態音響を届けることができ1台で広い範囲の害獣を撃退できます。
- (3) 撃退音声は、猟友会の皆様より提供頂いた駆除時の苦渋音・天敵の威嚇音・猟犬の吠声等を5種類以上をランダムまたは重ね合わせてダイナミックスピーカーより発声することにより、害獣の「馴れ」を防止して持続的な対策として効果を発揮します。（持続的撃退対策）
※異種生態音響：CH0. 1kHz 単音

CH1. サルの忌避音声（12種）

- (4) 作物の出荷時及び繁忙時には、最短定時（1分）発声とすることにより、害獣を寄せ付けないようにすることができます。（バッテリーの使用時間は最大音量で48時間となります）
- (5) 耐候強化プラスチック素材を使用して防水強化・軽量化を実現しております。

6-2. 取扱い

電源投入前に各VR及びSWを下記に従って設定します。

(1) 対象害獣SW

本装置の対象は「サル」で対象害獣SW「1」（CH1）に忌避音声の実装されております。「サル」対策では、地域によって、その群れや場所による生態で、追い払い方法が異なりますが、実装されている忌避音声（12種）はいずれも追い払いの実績があります。対象害獣SW「0」は、試験発声させるのに使用すると便利です。（10秒発声：10秒休止）
出荷時は「1」の位置（サルの忌避音声）となっております。
※設定にはマイナスインプラーをご用意ください。

(2) 定時間隔VR

定時発声時間を設定します。周囲の状況で任意に変更できます。

予め、任意のエリアへの害鳥獣の出現・通過が予想されて、集中的・緊急で害鳥獣を追い払いたい時、作物の出荷時期限定等で害鳥獣の追い払いを行い時などに定時発声間隔を最短の「1分」で運用します。

最短「1分」での定時発声はバッテリー消費量が増加するため（最大運用時間は48時間）運用中雨天等で日照不足が継続すると、「バッテリー切れ」になる可能性があります。必要な時・急ぐ時は付属品「AC/DC電源（充電用）」で「充電端子」に接続して「充電」を行います。

上記期間以外はバッテリー時間維持の為に発声間隔を10～60分程度で運用します。

- (3) 音量設定VR — スピーカー音量の設定をします。（出荷時中央）周囲の状況で任意に設定できます。尚、VR「MAX」にても「音割れ」はしないように内部で調整されています。

(4) 充電端子への外部入力

「充電端子」への入力には「DC電圧：5.5V～28V、電流容量：1A以上」の電源であれば機器の駆動又はバッテリー充電が可能です。

(4)-1 AC100V及び外部バッテリーでの運用

ハウス等でAC100Vの電源が近くにある時は、AC電源運用も可能です。付属品「充電器」を「充電端子」コネクタに挿入することによりAC運用が可能です。特に緊急で害鳥獣を追い払いたい時、バッテリー容量を気にせず発声間隔を最小に設定することで、効果的な追い払い対策が可能です。（1分運用等）

(4)-2 自動車用途のバッテリー（12V）での運用

自動車用途のバッテリー（12V）の外部バッテリーも上記「充電端子」コネクタを通して給電が可能です。（トリクル充電方式）外部バッテリーのための専用のアダプターを用意しております。ご必要の方は、メール或いは、ホームページより申し出頂ければ、無償で提供いたします。

(5) バッテリー充電時の注意

バッテリーの充電時間は「6-18 時間」が目安ですが、内部蓄電状況により状況が変化します。しかし、「1 時間未満」充電終了とか「24 時間以上」の充電未終了等の極端な充電時間になる場合には、次の対応をお願いします。

①「1 時間未満」の充電終了→AC/DC アダプターの AC 電源を抜き差しして再度充電を行ってください。充電回路が 1 回で起動できないときがあります。

②「24 時間以上」の充電未終了→4 時間以上経っても充電が終了しない時は「充電池」の劣化が考えられますので、電話・メール・ホームページでお申し出ください。対応いたします。

※尚、充電を使用時は、まず AC/DC アダプターを機器に差し込んでから、AC プラグを AC コンセントに接続してください。AC コンセントに AC プラグを差し込んだまま、AC/DC アダプターを機器に差し込むと、AC/DC アダプターの差し込みチャタリングのため、充電回路の起動が不完全となると場合があります。

(6) 初期確認

(6)-1. 電源「OFF」の状態では害獣対象 SW を「0」にします。昼・夜 SW を「昼・夜」にします。(中央) この時外部入力接続の必要はありません。

(6)-2. 電源を投入します。電源 LED (緑) が点灯します。

(6)-3. 約 10 秒間隔で 1 kHz 単音が発声し、「発声」LED が点灯します。

(6)-4. 3 の状態で音が出れば正常動作です。

(7) その他

本装置についてわからないこと、設置に関しての御相談、害獣対策のご相談等の対応をさせていただきます。

フリーダイヤル : 0120-503-280

Fax: 042-553-5819

E-mail: ynishi@ab.auone-net.jp

url: <https://yne-gaijyu.jp>

※尚 機器取扱い・機器設置については弊社ホームページ (<https://yne-gaijyu.jp/>) 記載をご参照ください。

7. その他仕様

7-1. 仕様場所

屋外

7-2. 使用周囲温度

-20~+70℃

7-3. 使用周囲湿度

相対湿度 85%以下 : 結露や水漏れの対策 (防湿処理) はしないものとする。

8. 検査規定

出荷に際しては出荷検査を実施します。

9. 保証

納入後一年間、明らかな設計、製造上の不備に起因する故障に関しては無償修理を行います。

また、当該期間経過後においても、弊社の重大な過失等により不具合が発生した場合には、弊社の責任において迅速に修理または交換を行います。

10. 機器取扱い

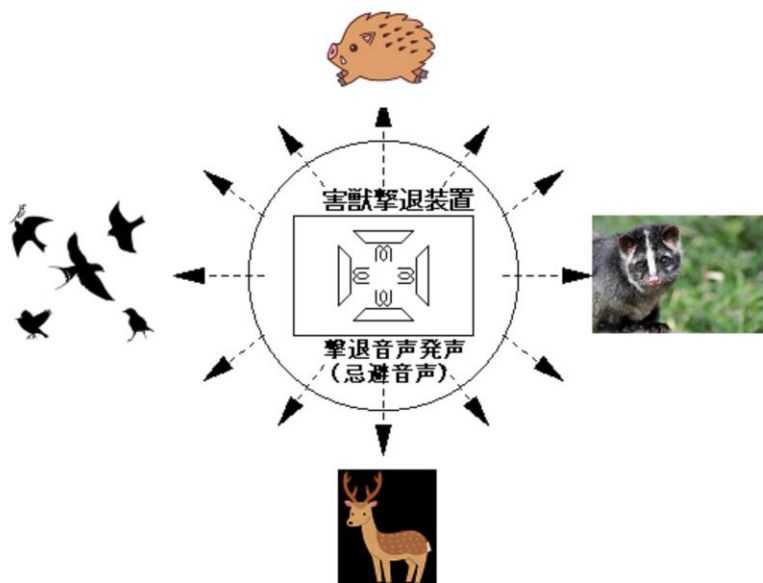
10-1. 機器取扱い1

YNJBA211 全景



害獣撃退装置(YNJBA211)

全方向スピーカー



10-2. 機器取扱い2



操作部名称・機能

①電源スイッチ

電源のオン・オフを切り替えるスイッチ。

②電源 LED

電源がオンのときに点灯する表示灯（緑色）。

③発声間隔ボリューム

定時発声の間隔を調整するボリューム。

④発声期間スイッチ

発声の動作モード（昼間のみ・昼夜・夜間のみ）を切り替えるスイッチ。

⑤音量設定ボリューム

スピーカーの音量を調整するボリューム。

⑥充電 LED

充電中に点灯する表示灯（赤色）。ソーラーパネル給電時も点灯する。

⑦発声 LED

発声中に点灯する表示灯（赤色）。

⑧対象害獣スイッチ

CH0. 1kHz 単音

CH1. サルの忌避音声（12種）

⑨充電入力コネクタ

外部電源からの充電や外部入力を行うためのコネクタ。

1 1. バッテリーでの運用時間 (Y N J B A 2 1 1)

1. バッテリーの運用時間

日照が何もない（ソーラーパネルの給電がない）ときで「1分の発声間隔で≒48時間」です。
標準設定（10分発声間隔）で480時間（≒20日）と考えてください。

日照時間によるバッテリーでの運用時間は概略下記のようになります。（目安です。）

- (1) 一日の日照時間が4時間以上————>10日後まで、定時発声間隔1分でバッテリー運用可能。（定時発声）
- (2) 一日の日照時間が2時間程度————>6日後まで、定時発声間隔1分でバッテリー運用可能。（定時発声）
- (3) 一日の日照時間が1時間程度————>3日後まで、定時発声間隔1分でバッテリー運用可能。（定時発声）
- (4) 一日の日照時間が0時間（曇り）——>1.5日後まで、定時発声間隔1分でバッテリー運用可能。（定時発声）
- (5) 一日の日照時間が0時間（雨模様）—>翌日まで、定時発声間隔1分でバッテリー運用可能。（定時発声）

2. バッテリー充電の目安

毎日晴天が続いていれば、または上記(1)～(5)に示す間隔で、運用されていれば、ソーラー充電によりバッテリー充電は不要ですが、曇天・雨天が連続したときは、充電時期に注意をお願いします。

充電必要時には、まず「電源LED」（緑）が消灯します。この時ソーラーパネルの充電中は赤色が点灯していることを確認してください。

この状態では内部制御電源は動作していますが、発声動作は電力節約の為、停止します。充電はなるべくこの時期に行ってください。機器が設置場所から電源供給場所まで移動できるのであれば、移動して付属の「充電器」で「充電」コネクタから充電を行います。

機器が設置場所から移動できない時は、別売品の「外部電源」にて充電を行います。

「外部電源」にはこの機器を充電できるだけの容量の蓄電池が搭載されております。

尚「外部電源」は上記場合に備えて、付属「充電器」で充電しておきます。

電源「ON」で「発声LED」が消灯状態が長く続くと、内部バッテリーの終止電圧以下となり完全に停止します。

内部バッテリーの保護の観点から終止電圧までの使用は推奨されません。

畑などに長期に放置することは、完全放電につながりますので、定期的に確認をお願いします。

3. 昼夜動作

本器の昼夜判別は実装されているソーラーパネル電圧で判定しております。

運用する時は街灯下とか夜も明るい所に設置しないようにしてください。昼・夜判別が誤動作します。